



ふぞろいの人参

今日も、園内のあちこちで、たくさんの遊びが広がっていた。

芝生の種まき後の養生が終了した、園庭オープンの初日。幸運にも、予報より早く雨が上がり、そこは朝から大賑わいとなっていた。

ボール遊びに砂遊び、廃材を自由に構成してごっこ遊び、台車やリヤカーを使った車遊び。そして、なんとと言っても今日のご馳走は、滑り台下に出現した、大きな水溜り。広がる草原、サバンナの一角にポツンと取り残されたような小さな池に集まる、多種多様な動物たち…そんな風景をダブらせてしまう。水辺での目的やその営みが、



同じようできて、動物ごとに少しずつ異なることも、何だか似ている気がする。そう言えば、私が園内をぶらついていいる時、思わずカメラのシャッターを切ってしまう構図がある。それは、一見バラバラなものが、無造作に集まっている様子。

それは何だっという。粘土細工だった、コップだったり、靴だったり、群衆だったり…ちよつとずつ、色や形が違っているその全体が、わけもなく私の感性を揺さぶるようだ。

かといって、粘土細工とコップと靴と一緒に並んでいればどうかと言えば、きつとそうした風景は、あまり気に止めないのかも知れない。同じ素材でできているけれど、目的や用途は同じだけれど、それは同じ仲間なのだけれど、みんなちよつ

とずつ違っている…そんな感じが、かっこよく見えるのだ。

そして時に、少し大きく違っているものが混ざっていることも、それがまたいいアクセントになって、全体を引き立てたりもする。

先日、当園の栄養士から、こんな話を聞いた。

給食で小さく切った温野菜を配膳していた時、「どの人参がいい？」と尋ねると、「丸い人参ちょうだい」とのこと。それをさらに半分にしたものもあつたため、大きいものを選んだのかなと思っていたら、何と「丸い方がかわいいから」との説明に、考えさせられた彼女。そして、別の子からは、「ここに置いて」と、わざわざ、食材を置く位置を、見本食とは異なる



位置に指定され、少し戸惑ったとのこと。しかし、食事の最後の最後に、その大好きな食材に手を付ける姿を見て、なるほどなと感じ入ったとのことだった。

転んだ担任の背丈と、長さを比べ始めたHちゃん。それを見ていた友だちが、担任の背が低いことを、ふざけてからかった時の、Hちゃんの言葉。「いろんな人がいて、それでいいと思う。だって一緒だったら、つまらないもん」

「いろんな人」がいることを、私たち大人は「多様性」と呼ぶ。それは大事なことなんだよ、と道徳的に論じてしまいうようなことを、「つまらない」という自身の感覚に置き換えながら語る彼女の感性には、はっとさせられる。

みんなが違っていること、一見バラバラに見えること…実は「綺麗」で、「面白い」ことなのだそう。

園長 折井誠司

●編集 幼保連携型認定こども園せいび

●発行人 折井誠司

●印刷所 折井誠司

●発行所 幼保連携型認定こども園せいび

〒192-0364 東京都八王子市南大沢5-12

電話 042-675-1551

ファックス 042-677-5643

E-mail: seibi@kodomoakiyo.jp

http://kodomoakiyo.jp